

## 2018年度学内研究助成 成果報告書

### ① 報告者所属・氏名

生活文化学科 長崎 勤

### ② 事業名

発達障害児に対する「カルピス」づくりを通じたコミュニケーション発達支援プログラムの開発

### ② 事業の目的

乳幼児から、中学生・高校生までの発達障害児に対して「カルピス」づくりをとおした、「コミュニケーション発達支援プログラム」を開発し、発達障害児者に適用し、その効果を検討することを目的にする。「コミュニケーション発達支援プログラム」の構成：以下の5つのLevelで構成。

- ・Level-I：大人(母親・教師など)に「カルピス」をつくって楽しむ/自分で作って楽しむ(典型発達児 1-2 歳、以下同様)【自分に向かった活動】
- ・Level-II：相手(大人、友人)に「カルピス」をつくってあげて楽しむ。相手の要望に応じて、量を調整する(初期調整活動)。(2-3 歳)【他者に向かった活動】
- ・Level-III：他者(大人、友人)の好みに関心持つ(2-3 歳)【他者の意図への関心】 ・大人や友人が「カルピス」の種類、濃さ、量を選ぶ事に注目する。
- ・Level-IV：他者の好みを尋ねる。(非言語/言語)(3-4 歳)【他者意図の理解・自己調整活動】・大人や友人に、好む「カルピス」の種類、濃さ、量を尋ね、それに応じて、「カルピス」をつくる。濃かったり、薄かったり、多かったり、少なかったりした場合、濃さや量を調整する(自己調整活動)。
- ・Level-V-1：決められた役割に従って、小集団で共同調理する。(5-6 歳)【協同活動(受動)】・数名の小集団活動で、決められた「カルピス」づくり係、注文係、運搬係、ゲストなどの役割に従って、七夕祭り、卒業生を送る会などで「カルピス」・カフェを楽しむ。
- ・Level-V-2：小集団でプランし、役割を決めて、皆で共同調理を楽しむ。(7-9 歳)【協同活動(能動)】・七夕祭りなどの「カルピス」・カフェの企画(日程、場所、予算など)を皆でプランし、役割を相談しながら、分担し、「カルピス」・カフェを実行し、反省する。

### ③ 事業実績・研究成果(具体的に)

- ・2018年7月-2019年3月『カルピス』づくりによるコミュニケーション発達支援プログラムを完成させ、福村出版から2019年7月に刊行予定で準備を進めている。
- ・2018年5月-2019年2月に発達支援プログラムを6歳の障害児に実施し、役割に従って「カフェごっこ」を遂行できるようになっていった。
- ・2018年11月3日 実践女子大学常磐祭で、「なかよしカフェ」を実施し、『カルピス』づくりによるコミュニケーション発達支援プログラムによる支援を行ってきたダウン症A児がカフェ定員として、学園祭参加者にカルピスを提供した。午後に、なかよしカフェフォーラムを開催し、80名の参加者を得て、A児の4年間の発達過程を紹介した。

・2歳～6歳の典型発達児40組の母子の観察を行い、「カルピス」づくりの発達研究を行った。2,3歳児では、自分の好みの飲料を他者に押しつけてしまうが、4歳児では他者に好みを尋ねることができるようになったが、5歳児では再び、自分が作れるようになったためか自分のつくった飲料を母親に押しつける傾向が見られた。

#### ⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

●2018年9月22-24日 日本特殊教育学会第56会回（大阪国際会議場）

長崎勤・兵藤瑞穂・天野美緒・鈴木はるみ(2018)包括的発達支援プログラムの開発と実践(1)―「カルピス」づくりによるコミュニケーションと他者意図理解の発達支援―日本特殊教育学会第56会回大会論文集,P1-77.

●2018年11月3日 実践女子大学常磐祭 なかよしカフェ・セミナーで『「カルピス」づくりによる支援プログラム』を紹介し、ダウン症児A児の4年間の発達過程の分析結果を紹介。

●2019年3月17-19日 日本発達心理学会第30回大会(早稲田大学)

天野美緒・兵藤瑞穂・鈴木はるみ・吉井勘人・長崎勤(2019)包括的発達支援プログラムの開発と実践(3)―4歳ダウン症児への希釈飲料づくりを通じた会話の発達支援―日本発達心理学会第30回大会論文集, PS7-1.

●2019年7月2-5日 ヨーロッパ心理学会(モスクワ)

Nagasaki,T., Yoshii,S. Hyodo,M.,& Amano,M.(2019) A facilitating developmental program of communication for children with developmental disorders using co-cooking activities. XVI European Congress of Psychology July 2-5 2019, Moscow, Russia(Poster,Accepted)

●2019年9月21-23日 日本特殊教育学会第57回大会(広島大学)（発表予定）

長崎勤・兵藤瑞穂・天野美緒・吉井勘人(2019)包括的発達支援プログラムの開発と実践(6)

●2020年3月2-4日 日本発達心理学会第31回大会(大阪国際会議場)（発表予定）

長崎勤・兵藤瑞穂・天野美緒・吉井勘人(2018)包括的発達支援プログラムの開発と実践(7)

●2019年7月長崎勤・田島信元・吉井勘人（編集）(2019)「食育を通じたコミュニケーション発達支援―「カルピス」づくりによる支援プログラム―(仮題)」を福村出版から出版予定。(カルピス誕生100周年記念(7月7日)に合わせ)

#### ⑥ 今後の展開・継続性について

今年度もプログラム開発、障害児への支援プログラムの適用、典型発達児での発達研究を継続する予定である。